

WASEDA MECHANICAL ENGINEERING

WASEDA

MECHANICAL

ENGINEERING

VOL.

30

OCT. 2008

Newsletter

2008年(平成20年)10月1日発行

2008年度 機友会総会の報告

6月14日（土）機友会総会を大久保キャンパスにて開催しました。

「2007年度事業報告」「2007年度決算報告」の説明、監査報告があり承認されました。ついで「2008年度事業計画（案）」「2008年度予算（案）」が承認されました。決算報告を下表に示します。

引き続き機友会細則の一部変更について説明があり承認されました。（別項に詳細記載）

役員については、杉島会長の留任、梅津理事の副会長就任、新任理事として大石則忠氏、岡部公一氏、石太郎氏、浜野雅夫氏の就任、そして村山常昭氏、寺山孝男氏、佐山正己氏の理事退任が承認されました。

機友会特別賞は「早稲田エコランクラブの

活動」、奨学論文賞は「C言語によるCUIゲームの作成」（野又裕道君 総合機械工学科2年）がそれぞれ受賞しました。

梅津先生から昨年度再編された3つの理工学部の近況、東京女子医大との連携による先端生命医科学センター（TWIns）の設立趣旨および内容について説明があり、最後に大型先生から理工100周年記念募金についての説明と、更なる協力の要請がされました。

見学会では、4月に竣工した63号館を見学し、最後に広いスペースの開放的な1階カフェテリアに移り懇親会となりました。

懇親会では、この春榮誉ある叙勲を受けられた田島名誉教授、江口昌典氏（昭32年卒）

の紹介があり、両氏からそれぞれ喜びの言葉が述べられました。そして齊藤名譽教授による乾杯の音頭で歓談が始まり、和やかな中大いに懇談も盛り上がり、最後は小澤監事の音頭による校歌齊唱で閉会の運びとなりました。

ここで、決算報告について概要を説明します。

2007年度分の収入は7,681,348円あり、その内OB会費が1,726,000円、学生会費が155,625円でした。サポート費は予算1,000,000円に対し、1,937,463円の収入があり、クラス会や研究室OB会からもご協力をいただきました。

2007年度の収入計は予算対比110.7%、前年対比125.8%と会費納入向上に各位のご協力が得られました。

支出については、極力経費削減につとめ、予算対比94.9%、前年対比86.9%にすることできました。

2007年度 決算報告書

収入の部

項目	予算額	決算額	差異	備考
前納分会費（07年度分）	3,838,446	3,838,446 (3,568,321)		
当期入会金会費（07年度分）	1,800,000	1,881,625 (1,864,500)	81,625	
OB会費		1,726,000 (1,588,250)		08年以降分 3,695,000
学生会費		155,625 (276,250)	# 466,875	
サポート費	1,000,000	1,937,463 (671,000)	937,463	
企業賛助金	300,000	0	△300,000	
雑収入		23,814 (3,922)		預金利息
収入計	6,938,446	7,681,348 (6,107,753)		
前年度繰越金		1,199,718 (2,412,109)		
合計		8,881,066 (8,519,862)		

*決算額欄の（ ）内は2006年度実績

貸借対照表 2008年3月現在

借 方			
科 目	金 額	科 目	金 額
新宿北郵便局	9,431,721	引き締金	5,996,829
郵便振替分	262,240	継越金	2,520,825
三菱東京UFJ銀行新宿支店	352,372	預り金 入金済会費	8,807,822
りそな銀行新宿支店	1,824,423		
みずほ銀行新宿西口支店	5,423,431		
現 金	31,287		
合 計	17,325,474		17,325,476

支出の部

費 用	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
事業費	3,800,000	3,682,979 (3,738,814)	117,021	
ニュースレター発行費	2,200,000	2,188,751 (2,172,495)	11,249	27号・28号発行
学生支援費	400,000	424,350 (440,337)	△24,350	機友会賞・サークル活動
奨学金	300,000	190,000 (280,000)	110,000	
総会・会議費	500,000	519,163 (616,535)	△19,163	
行事・活動費	400,000	360,715 (249,447)	39,285	ゴルフコンペ20周年記念
事務運営費	2,900,000	2,677,262 (3,581,330)	222,738	
人件費	1,800,000	1,724,035 (1,922,525)	75,965	
交通費	350,000	331,220 (356,980)	18,780	
通信費	150,000	89,997 (159,475)	60,003	
事務用品・印刷費	300,000	303,470 (412,294)	△3,470	
慶弔費		0		
データーベース管理費	100,000	20,000 (205,381)	80,000	
HP契約費	200,000	69,300 (447,300)	130,700	
振替へ手数料		109,240 (52,310)		
その他雑費		30,000 (23,065)		
支 出 計		6,360,241 (7,320,144)		
緯 越 金		2,520,825 (1,199,718)		
合 計		8,881,066 (8,519,862)		



新任理事 左から岡部公一氏、大石則忠氏、浜野雅夫氏、石太郎氏

会員の皆様には平素より機友会の活動にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて早稲田大学は2007年に創立125周年を迎える、また今年は理工学部の創設100周年の節目の年です。大学ではそれを好機と捉え、時代の変化に対応した学部や大学院を再編し、研究教育の強化や教育環境の整備などが進められています。

理工学部も3学部・研究科に再編され、基幹理工学部に機械科学・航空学科、創造理工学部に総合機械工学科が設置され、基幹理工学部長には河合素直教授、創造理工学部長には山川宏教授が就任されています。また東京女子医大と連携する先端生命医科学センター長には梅津教授が就任され、機械工学科の活躍は目覚しいものがあります。

早稲田機友会もこれらの変化に応じるべく歴代会長・理事・幹事・事務局が一体となって努力をされてきましたが、不肖私も2006年から会長職を仰せつかり、会員の皆様のお力をお借りして1期2年を曲がりなりにも過ごすことができました。

活動についてはニュースレター記載のとおりで、ゴルフ会は22回を数えて毎回50名ほどの参加があり、見学会は会員企業のご協力で一般では見られない所も見学でき、イブニングサロンでは現役教授の最新の研究成果をご講義頂き、いずれの企画も定員をオーバーするようになりました。また会終了後の懇親会やホームカミングデーの機友会室では会員同士の交流の輪が広がり、「都の西北」の合唱で昔日の想いを馳せておられます。

また学生会員向けとしては上記企画行事の参加が増加し、企業で活躍しているOB会員を迎えての就職バネコンには300名余が参加しております。また学生同好会の活動費用支援、課外活動や優秀論文賞の表彰などの事業も定着しつつあります。

ところで地下鉄副都心線が開通し、西早稲田駅の出口が理工学部構内に開設されました。その開業日の6月14日に平成19年度の総会と、新築の63号館の研究設備見学会と懇親会を開催し、出席者に多大な感銘を与えることができました。

その総会で団らぬ私が会長に再任され、2年の任期を新旧理事と共に努めることになりましたが、理工100周年の時期での就任に身の引き締まる思いをしているところです。

なお125周年記念事業募金では、機友会が理工学部各団体では最高の1,100万円以上の寄付となり、会員の母校に対する熱き思いに感謝をしているところです。また別途ご案内のとおり、引き続き目標20億円の理工学部創設100周年記念研究教育強化募金が河合教授を募金委員長として開始されていますので重ねてご協力をお願いします。

最後になりますが、機友会の活性化に理事・幹事・事務局と共に努力しますので、会員の皆様も財政基盤の確立のための会費の納入は勿論、企画行事に参加されて交流を深められることをお願いし、早稲田機友会が発展することを願って会長再任の挨拶とします。



『田島清瀬先生が瑞宝中綬章を受章されました』

田島清瀬先生は昭和2年3月神奈川県横浜市に生まれ、昭和25年3月早稲田大学理工学部を卒業、株式会社新潟鐵工所に勤務された後、昭和27年に早稲田大学助手として大学に戻ってこられました。その後、同大学専任講師、助教授を経て、昭和42年に早稲田大学教授に就任され、平成9年3月に定年退職されるまで45年の長きにわたり早稲田大学の教壇に立ち、教育・研究のみならず大学運営に関しても多大な貢献を残されました。

教育面では、永年にわたって機械工学の教育・研究に従事され、主に流体力学、機械振動学、工業数学およびその関連分野に大きな業績を挙げられました。特に振動論と流体工学の学際分野とも言える「流体関連振動」分野の重要性にいち早く注目し、その方法論の開拓および体系化に寄与して、学会での指導的な役割を果たされました。また、流体工学の諸現象に対して、振動論の立場から応用数学を駆使して独創的で優れた考察を行い、溶融金属流、電磁流体力学、流体機械の性能向上、流体中の波動問題などの分野で実験的・解析的研究を展開されました。このような先駆的研究とその優れた成果に対して、昭和56

年には日本機械学会論文賞を受賞されています。機械工学の広い範囲に及ぶ研究の背景となる業績は、先生の著書「振動の工学」および「工業数学I」に代表されるものです。教育・研究に対する先生の情熱は、定年退職後も決して衰えることはなく、長年の教育研究の成果を踏まえて執筆された「振動学」は、高度な非線形振動の要点を初学者向けに分かり易く解説したものです。

先生は高い学識と深い見識、温厚な人柄の下に労をいとわぬ熱意を持って多くの優れた人材を育成し、卒業生は社会の広い分野で活躍されています。時代の要請に答える形で先生が推進された理工学部の多人数教育は、理工系実験を始めとする実技教育を強化する必要性に迫られ、安全教育と環境問題に配慮した実験室の体制づくりという形で結実しました。先生が自ら設計された流体共通実験室は当時の大学・産業界の注目を集め、学内外から高く評価されました。

先生はまた、昭和57年から平成2年まで早稲田大学理事として情報科学教育センターの強化充実を図るなど、大学運営の重要な責務を果たし、大学の発展にも貢献されました。



学外では、昭和51年から文部省大学局大学設置審議会専門委員、昭和52年からは同省学術国際局学術審議会専門委員などを歴任し、我が国の教育行政に専門委員として協力されました。また、昭和58年には(社)私立大学情報処理教育連絡協議会会長に就任し、私立大学の情報機器整備と情報教育研究の振興に尽力されました。さらに平成6年からは(社)日本工業技術振興協会理事・同会長として、我が国の技術者教育にも一石を投じられました。

以上のように、田島清瀬先生の永年にわたる優れたご業績に対し、今春、瑞宝中綬章が授与されました。6月28日には田島清瀬先生の叙勲受章をお祝いする会が開催され、研究室の卒業生を始めとする関係者が一堂に会して、栄誉ある叙勲受章を心からお祝い申し上げました。

(文責 太田 有教授)

総合機械工学科、TWIns、先端生命医科学センター

梅津光生教授

1. はじめに

2007年春に理工学部が3分割された際に生まれた総合機械工学科は、創造理工学部に属しています。本学科では、「価値観や背景が異なる多様な人間の営みの場に調和した共創の技術」を科学する場を作り、その場を通して、世界をリードする「ものづくり」の専門知識を備えた実践的高度なエンジニアや、21世紀の科学技術を牽引する研究開発者の養成を目的としています。学科の定員は140名ですが、受験生の関心が高く、高倍率であり、初年度は170名、2年度目は160名の新入生を迎えるました。

また、学部卒業生のうち6割が大学院修士課程へ進学し、またその1割が博士課程へ進みます。現在は修士学生の増加のみならず、COEプログラムの活用で、博士課程学生への優遇措置や魅力的な企画が用意され、アカデミアのみならず企業へ就職する博士課程修了者も増加しています。なお、従来の推薦入学制度のほか、9月入学による多様な学生、社会人、外国人の入学のしやすい仕組みを用意しています。また、飛び級による学位取得までの年限の短縮なども積極的に取り入れ、大学卒業後3年で博士号を取得したケースも出ています。

2. 総合機械工学科の運営における特徴

総合機械工学科の組織運営上の特徴のひとつに、教員の仲間意識向上の努力が挙げられます。

文部科学省は高等教育の実質化のためにFD(Faculty Development)を推奨しています。これは大学教員が研修会等を行い、自らが教育の質を高める努力をすることであり、初代の菅野主任、草鹿幹事のリーダーシップの下、年に2~3回の合宿を開催しています。特に新設科目の進め方、学生の反応などの情報共有を通じて、「走りながらより良質なカリキュラムに仕上げていく」ことを進めています。また、競争的大型研究費を組織的に果敢に挑戦するための作戦会議も行っており、合宿に白井総長を巻き込んで、早稲田の中で何をすべきか、また、世界を相手に総合機械工学科は何をすべきかで大議論になったこともあります。それらは急に出来るようになったわけではなく、藤江教授を代表として2003年度に採択された21世紀COEプログラム「超高齢化社会における人とロボット技術の共生」がきっかけとなり、教員一丸となって新しい学科の創設に向けた意識改革が行われたことがベースにあります。そして本年、今までの流れを加速する形で、グローバルCOEプログラム「グローバルロボットアカデミア」が採択され、一層充実・強化した高等教育と先進的独創的研究を推進していく基盤ができました。

また、文部科学省の若手人材育成のテニュアトランクプログラムにも総合機械工学科は参加し、学生教育に有能な若手を2人、新設の早稲田大学高等研究所で准教授として雇用しています。彼らはこのプログラムが用意した多額の研究費を使って

独創的な研究をするだけでなく、学生教育にもコミットしています。

3. 総合機械工学科における教育・研究

大学院においては、デザイン共創、ロボティクス医療福祉、環境・エネルギーという3つのコースを作り、そこにスムーズに進めるような学部4年間のカリキュラムを用意しました。

これらの教育、研究はプロジェクト研究所、研究センター（理工研・環境総研、先端生命医科学センター:TWIns）、サテライト研究所（本庄早稲田・北九州・岐阜）における学科を越えた世界最高水準の研究を通じたORT（オンライン・リサーチ・トレーニング）を核としています。なお、TWInsについては前号で紹介ましたが、大学本部、理工とTWInsとはそれぞれ2-3km程度なので、シャトルバスで大きな問題はなく移動しています。（写真1）

また、写真2のごとく、従来の早稲田では考えられないような女子医大病院手術室での実習も始まっています。



写真2 集合写真



写真1 シャトルバス

機械科学・航空学科

1. 理工学部および機械工学科の再編

機械工学科は昨年、「機械科学・航空学科」（学生定員150名）と、「総合機械工学科」（学生定員140名）の2つの学科に再編してから1年が経過しました。機械科学・航空学科の「科学」は自然の摂理に基づいた科学（Science）的思考を大切にするととの考え方を表しております。同時にその応用学術分野である機械工学（Mechanical Engineering）を核に据え、物理・数学を基盤とした力学を中心とした機械系基幹学術分野を教育・研究することを本学科の基本理念としています。

一方「航空」は航空機や宇宙機など特定の対象を教育・研究の目的としています。機械工学科はもともと航空関連との縁が深く、早稲田大学にも戦前には独立した「航空機科」がありました。終戦とともに閉鎖されました。このたび、再編にあ

たりもう一度、航空そして宇宙分野に注力することになりました。あえて「航空」を学科名に冠したのは、本分野がその先に位置する宇宙関連とともに、機械系の技術の最先端かつ極限まで進化された象徴的な学術から構成されているからです。その研ぎ澄まされた学術から誘発される技術連鎖・波及効果を最大限に生かすことを目標にしています（図1）。

昨年、一括入試により550人の受験生が基幹理工学部に所属し、人文・社会科学系、実践的技術英語、数学・物理・情報などの基礎的科目を習得してきました。本年3月の1年次学期末に、本人の希望と成績を勘案し、160名の学生を当学科に受け入れることができました。現在2年生として、基幹科目である4力学を中心に教育をしています。多様化を意識しそうな総合的・単発的になりがちな教育を廃し必修科目を充実させ、選択科目を

浅川基男教授

極力絞り込みました。演習・実習・実験は講義と連携させた系統的科目として捉えました。具体的には2~3年の「工学系のダイナミクス」の講義・演習にはじまり、「材料の力学1、2」、「流体の力学1、2」、「熱力学1、2」の4力学を必修科目として当科の核に置きます。「機械科学・航空実験1（必修）、2（必修）」「加工実習F（必修）、A（選択）」と併せて講義・演習・実験実習により頭の



図1 機械科学・航空学科の教育・研究の特徴

みならず手足を動かした実践教育を基本とします。一方、研究面でも、従来の機械工学科が自動車、重工・産業機械、素材・エネルギー、電子精密機器などで実学に強い研究を展開した伝統を継承し、航空を加えた新しい分野で着実な教育・研究を展開したいと考えています。

当学科には19名の専任教員がありますが、この数年間に航空・宇宙関連の専任教員を3名、客員教員を1名受け入れました。さらに今後、数年間に航空宇宙関連の教員を全体の3分の1ほどに増強して行く予定です。航空宇宙関連の教育研究を早期に、実質的に推進して行くために、運航会社であるANAグループと「連携プログラムに関する基本合意書」を提携しました。大学には無い航空機を実際に運用・整備する技術を提供して頂き、5教科において基礎は専任教員、応用・

実学をANAの講師が教えております。整備工場の見学も織り込むなどユニークな授業も学生から高い評価を得ています。本年度はインターンシップも加える予定で、学生にとっても生きた学問になることを期待しています。また航空・宇宙分野の研究を開発する大学のポテンシャルを活用しANAグループと共に研究も走り始めました。

次に研究機関として「JAXA（宇宙航空研究開発機構）」と包括協定を締結しました。主として研究面・人材面での交流を進めております。現在3つの研究テーマが継続中で、派遣された学生も喜々として研究にいそしんでいます。さらに航空機製造会社である「エアバス社」とは、一昨年はセミナー形式ではありますが「航空機産業の今後」を実施し、昨年後期からは、毎回ヨーロッパのエアバス本社から派遣され、通訳なしの英語に

よる寄付講座「Present and Future of Aircraft Industry」が開設されております。今年は2名の学生がフランスのツールーズに1月間インターシップとして派遣されました（図2）。

このように当科では、名実ともに航空宇宙関連の教育と研究に力を注ぎ、若い人の夢を実現すべく努力を続けて行く所存です。各方面からのご支援・ご協力を切に願っております。



図2

新任教員紹介



豊かな社会の創造に貢献できる 人材育成を目指して

機械科学・航空学科 手塚 亜聖

2003年に東京大学の博士課程を修了し、その後、今年春まで東大で、助手、助教として翼空力特性の解明、超小型無人航空機の空力解析の研究などを行ってきました。超小型無人航空機は、航空工学の分野で注目を浴びております。産業的 possibility として人工衛星や飛行機などが使われてきたリモートセンシングや、医薬品といった軽量で緊急性の高い物資の運送手段として利用が考えられ、既存のシステムより低コストで機動性の高い運用が期待されています。

航空宇宙分野でこれから注目を浴びる研究として、地球温暖化やエネルギー問題と密接に結びつく宇宙太陽発電衛星が挙げられると考えています。現状を鑑みると、国際宇宙ステーションの運用において、飲料水や食料などは地球の物資で賄われていますが、エネルギーは太陽電池パネルで自給しています。宇宙という人類のフロンティアを、今後どのように活用していくかを考えると、社会基盤として必要なエネルギーを宇宙から供給する、宇宙太陽発電衛星の発想に

至ります。1kgで数百万円と言われる打ち上げコスト低減は宇宙輸送系に課せられた課題ですが、今後、宇宙輸送の需要が増大するならば、これまでとは異なる再使用型の宇宙輸送系が実現されると予想されます。このような未来を予測し、将来の宇宙輸送系として新たなコンセプトを提案していきたいと考えています。

早稲田大学の機械科学・航空学科が発足して1年余りです。学生は若きエネルギーとパワーにあふれ、未来ある優れた人材の宝庫です。工学技術の向上を通じてより豊かな社会の創造に貢献できるよう、彼らの新しい発想を掘り起こし指導していきたいと心がけています。卒業生の皆さまからの温かなご支援と、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

航空学科一期生です



機械工学科の編成後の2年生の 感想

機械科学・航空学科在学 亀谷 真帆

私は、小さい頃から星を見ることが好きでした。私達の地球に、流星群や彗星がやってくるのも楽しみでした。そして、空や宇宙に対して漠然とした興味や憧れを抱いてきました。

ある時、私は『コンタクト』という映画を観ました。地球外生命体の存在を信じる女性科学者が、日々彼らとの交信・コンタクトを図り、研究に励む姿を描いたSF映画です。次の彼女の台詞は、未だに私の心に強く刻まれています。

「この広い宇宙が、人間だけのものだったら、

もったいないでしょ？」

私は、幼いながらもこの台詞に深い感銘を受け、それまで漠然としていた宇宙に対する興味や憧れが、自分の中で強いものに変わっていくを感じました。

受験が迫りつつある高校3年生の12月、私にとって奇跡のような出来事が起きました。高校に、宇宙飛行士の古川聰さんが講演にいらしたのです。そしてさらに幸運なことに、講演終了後、私は古川さんとお会いし、お話しする機会を得ること

ができました。大学で宇宙について学びたいということ、将来は宇宙開発に携わられたらと思っていることをお話しすると、古川さんは、「待ってるから。頑張ってね。」という言葉をかけてくださいました。この出来事は、私の中の、夢を叶えたと思う気持ちをより一層強いものにしました。そして、今でも私の大きな支えになっています。

今年、私は大学2年生になり、念願の機械科学・航空学科に配属されました。興味深い授業もあれば、ときには難解な講義や課題もあります。しかし、どれもとてもやりがいがあり、大変充実した大学生活を送っています。

大きな夢に向かって、まだ最初の1歩を踏み出したところです。日々少しずつでも小さな1歩を重ねていけたらと思います。

江口昌典氏旭日小綬章を授与される

江口昌典氏は、昭和7年、東京都品川区中延に生まれ、早稲田大学第一理工学部機械2科を昭和32年3月に卒業されました。

昭和32年4月、父上が経営する大和工業株式会社に取締役として入社、自動車用品ボディパネル部品の生産管理部門を担当して、金型によるプレス加工における部品生産の品質向上に力を注ぎ、自動車部品業界での不良率低減の代表的な企業として確固たる地位を作り上げました。昭和35年12月父上である社長死去により、その力量が評価され、昭和36年2月に、代表取締役社長に就任されました。代表取締役社長に就任後は自動車産業の将来性に着目し、これから自動車産業の発展に対応していくために、物流面での効率化と製品ごとの生産体制確立に力を注がれました。特に、経営の基本方針として需要先企業への部品供給に円滑に対応していくため、昭和36年に相模工場、昭和46年には栃木小山工場を新設するなど、需要先企業を重視した生産体制の確立を推進されました。

また、昭和51年には九州に進出した日産自動車株式会社に対応していくため、自動車の一次部品メーカーである山川工業株式会社、三池工業株式会社との3社合併による勝山プレス株式会社を設立、3社の技術特性を生かした自動車ボディパネル部品の一貫生産体制を確立されました。

さらに、昭和62年には国内自動車メーカーの海外進出に対応していくため英國日産株式会社との合併による日産大和エンジニアリングリミテッドをイギリス・ニューカッセルに設立、グローバル化への体制を整えました。平成10年には自動車部品プレスメーカーである山川工業株式会社を合併し、氏は代表取締役会長に就任、国内10工場、海外8ヶ国、年商1500億円、従業員数3000名を誇る日本でトップの自動車専用プレス部品企業に育て上げました。

氏は、日本金属プレス業界にたいしては、昭和50年から現在まで31年間の長きにわたりて社団法人日本プレス工業協会理事（平

成9年から平成12年まで、3年間は副会長、平成12年から平成18年までの6年間は会長）を務め、素形材産業ビジョンの作成、インターネットによるISO14001の実施、安全化の推進、第15回金属プレス国際会議の国内開催、および技術開発など、日本の金属プレス加工業界の発展に貢献されました。

また氏は、神奈川県プレス工業会においては、平成3年から平成7年までの4年間副会長、平成7年から現在まで会長として地域における金属プレス加工業の発展にも力を注がれました。

以上のように、多年にわたる江口昌典氏の優れたご業績に対し、旭日小綬章が授与されました。江口昌典氏に、心より敬意を表すと共に、機友会会員からこのような叙勲者が選ばれたことを喜んでいます。

（文責、林郁彦名誉教授）



NHK大学ロボコンへの挑戦を終えて。

機械工学科3年 菅原英剛

今年6月8日に行われた、NHK大学ロボコン2008/ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会において、私たち早稲田大学宇宙航空研究会WASAメカトロプロジェクト・WMMC早稲田マイクロマウスクラブ・ものづくり企業学生探訪団体HONMONOの3団体合同プロジェクト（以下チームロボコンとまとめさせていただきます）は、早稲田大学として初出場・準優勝という結果を収めることができました。

このチームロボコンは、昨年冬にWASAが初めて一次書類選考に合格したことをきっかけとして、WASAと交流のあったWMMC、HONMONOがそれぞれ得意分野である機体の加工・組み立て、回路製作・制御、涉外を分担する形で出来上がったものです。

私は、WASAのチーフ、そしてチームのリーダーとして、機体の設計・製作を中心に活動していました。書類提出から本番までおよそ半年、初出場が故の困難の連続でした。ベースとなる機構がない状態での手探りでの製作、機体で埋もれる部室、センサ調整・テストや2次ビデオ審査撮影に必要な広く平らな場所の確保、それらを用意するための費用

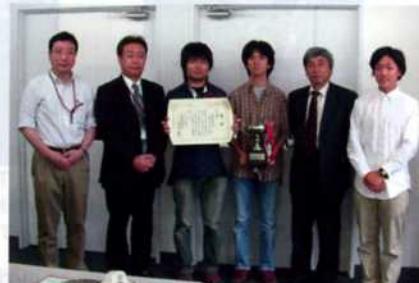
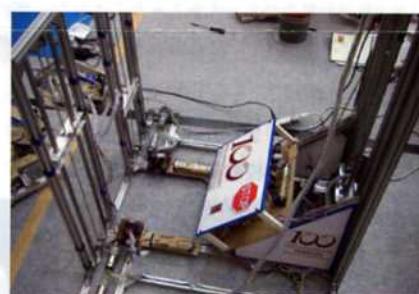
など山積みする問題に正直なところ何度も何度も辞めたいと思いました。それでも辞めずといられたのは、参加メンバーの努力、理工100周年事業や工作室の方々の協力と応援に応えたいという想いがあったからです。本番があまりに上手く行き過ぎたためか、大会が終わってすぐは準優勝という実感はまったくありませんでしたが、学校に戻って色々な方に声をかけていただく内に徐々に嬉しさが沸きあがりました。

準優勝の次に目指すものは「優勝」のひとつしかありません。今年は理工100周年学生事業として採択していただき多大なご支援を頂きましたが、来年からは予算も活動場所も私どもで工面しなければならず現状では不可能であり来年の出場を断念せざるを得ません。

したがいまして私どもは現在、来年以降の活動の継続、そしてABUアジア・太平洋ロボコン出場という夢の達成を応援してくださる機友会卒業生の方々に活動費のご支援を募っております。私どもの目標をご理解いただき、賛同いただける方は機友会事務局までご連絡頂きたいと思います。何卒お願い申し

上げます。

筆者は早稲田大学宇宙航空研究会WASAメカトロプロジェクト・WMMC早稲田マイクロマウスクラブ・ものづくり企業学生探訪団体HONMONO 合同プロジェクト
WASAメカトロプロジェクト2008年度チーフ ロボコンチームリーダー



土橋正道氏とゴルフ会（同氏を偲んで）

現在でこそコンスタントに50名を越し、機友会の年中行事になっている「ゴルフ大会」もスタート時（平成9年5月）はニュースレターでの応募者わずか2名でした。これには企画担当も慌てふためき、第2回からは友人・知人を頼って個人勧誘に努めましたが中々ゴルフ会の主旨を理解してもらえず、理事の奥様まで説得して参加してもらっても、3組（12名）を集めるのに大苦労をしていました。

そんな時いち早く「会員の総（先輩・後輩）の親睦」の意を理解して頂き、同期の方を誘って参加して頂いたのが、土橋先輩（S19年卒）でした。

第3回大会より今年の22回大会まで10年間連続（20回）して参加していただき、その間何人かの知人・後輩を勧誘していただき、初期のゴルフ会に大きな貢献をして頂きまし

た。プレー後の懇親会でも最長老として会場の雰囲気をリードし、「乾杯」の音頭とりは土橋先輩の定番でした。また杉島会長より機友会の財政逼迫の事情や寄付の話しを聞くと、数日後「ささやかですが振り込んでおきました。」とよくお電話を頂戴いたしました。

ゴルフの腕も年齢からでは抜群で、第11回大会（当時79歳）ではニヤビン賞を2ホール（OUT-IN）とも取り、若手腕自慢のハナを折り、表彰式でヤンヤの拍手を受けたのを昨日のように覚えています。

さる6月5日娘さん（長男は北海道で酪農、長女との二世帯住宅）より、「昨晩孫たちと普段通り和やかに夕食をし、今朝顔を出さないので、訪ねたら風呂の中で息が絶えていました。全く苦しんだ様子はありませんでした……。」

後期高齢者のすべてが出来るだけ長生きを

したいと願っているかどうかは分りませんが、生きている間は最後まで元気で暮らし、周りに迷惑をかけず、死ぬ時は苦しまずにコロリと行きたいと切に願っているだろうと思います。

しかし現実には医療の進歩や諸条件で中々本人の希望通り、コロリと死なせてもらえないのが現実で、土橋先輩（享年85歳）はまさにビンビンコロリの典型でした。

長期にわたり機友会へのご協力とゴルフ部会へのご尽力に感謝し、謹んでご冥福をお祈りします。



（文責 石岡貞雄）

早稲田大学理工学部創設100周年記念のお知らせ

本年は1908年（明治41年）に開設した早稲田大学理工科から数えて100年目になります。この百年を振り返るとともに第二世紀に向けて下記のとおり理工学部創設100周年記念式典が行われます。

日 時 11月9日(日) 15:00~16:40 予定

場 所 大隈講堂(参加自由・無料)どなたでもご入場できます。

I. プロローグ

・理工100年の歩み「去來百節」(スライドショー)

II. ~雅楽、電子音響とロボットの舞い~

・理工学部100周年記念作品「北斗西流」※

作曲：菅野由弘

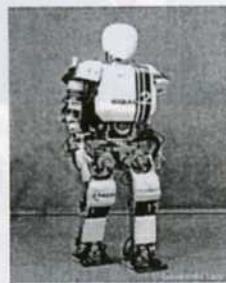
※「北斗西流」(ほくとせいけりゅう)

北斗七星のひしゃくからもたらされた一滴の水がやがて本流となって行くという雄大なイメージを理工学部100周年を記念して作曲されました。

III. 記念式典

1. 開会の辞 2. 式辞 3. 挨拶

4. 来賓祝辞・校歌齊唱 5. 閉会の辞



WABIAN-2R
総合機械工学科 高西研究室
2足歩行班



TWENDY-ONE
総合機械工学科 菅野研究室
TWENDYチーム

詳しくは「<http://www.sci.waseda.ac.jp/riko-100/top.html>」をご覧ください

理工学部創設100周年記念事業

「テクノフェア早稲田（TechnoFair WASEDA）」のご案内

理工学部創設100周年を機に、研究成果を学内外に披露する「テクノフェア早稲田（TechnoFair WASEDA）」を開催します。研究成果を『広める』、先端技術を『極める』、交流・連携を『深める』をキーワードに、早稲田理工ならではの様々なイベントを行います。特に今回の「ブース展示」では、学部・学科・研究室のブースの他、企業からもご参加いただき、最新研究・技術を発表ブースを設け、大学、企業、社会との出会い・交流・連携の場となることを期待し皆様のご来場を心よりお待ちしています。

日 時 2008年10月31日（金）10:00~17:00

11月 1日（土）10:00~16:00

場 所 早稲田大学大久保キャンパス63号館 1階情報ギャラリー・2階会議室、教室

イベント ●開催セレモニー [10月31日（金）13:00~13:30]

●ブース展示 [10月31日（金）~11月1日（土）10:00~17:00
11/1は16:00まで]

●公開セミナー [10月31日（金）10:00~17:00]

●ワークショップ [10月31日（金）10:00~17:00]

●3学部フォーラム [11月1日（土）10:30~12:30]

主 催 早稲田大学理工学部

※詳しくは「<http://www.sci.waseda.ac.jp/TechnoFair/>」をご覧ください。

お願い

トラブルでご迷惑をお掛けしておりましたが、機友会宛メールは当分の間、次のアドレスで対応しますので、よろしくお願いいたします。（機友会事務局より）

waseda-kiyukai@list.waseda.jp

イベントのお知らせ

モビリティンボジウム “モビリティの将来を拓く多様な自動車技術”

環境、燃料・エネルギー、安全に関わる最新の自動車技術の紹介と今後のモビリティのあり方を展望します。(詳しくは機友会HPに掲載します)

日 時 2008年11月15日(土) 10:00~17:00

場 所 早稲田大学理工学部57号館202教室

懇親会 シンポジウム終了後、理工学部内で行う

事前登録 不要 参加費 無料

主 催 早大モビリティ研究会 代表: 大聖 泰弘

事務局 徳井、藤田、渡邊 TEL: 03-5272-3364

Email:mobility@mse.waseda.ac.jp

第23回 機友会ゴルフコンペ開催のお知らせ

回を重ねてきました機友会ゴルフコンペも23回となりました。メンバーも少しずつ変わりつつありますが、新しい方々の参加をお待ちしています。皆様のご協力のもと、これからも続けていきますので、是非参加してください。

日 時 2008年11月6日(木) 8:00 集合

場 所 川崎国際生田緑地ゴルフ場

会 費 プレー費 16,000円+食事代+5,000円

(懇親会費、賞品代、その他経費)

競 技 新ペリア方式(ハンデ上限なし、隠しホールのトリプルカットなし、年齢制限なし)

問合わせ先: 機友会E-mail kiyukai@mse.waseda.ac.jp

パネルディスカッション(就職説明会)を行います

毎年300名を超える出席者の中で、学生とOBのパネラーとの就職への第一歩の大切なイベントです。

日 時 2008年12月6日(土) 13:00~16:00

場 所 57号館202教室

開 催 機械工学科2009年度就職担当: 高西 敏夫 教授

共 催 機友会 会長 杉島 和三郎

:副会長 浅川 基男 教授

パネラー 主要業種各社OB(6~7名)を予定

機友会 見学会(第7回)のお知らせ

ラッキー7の第7回目の見学会は昨年度上越新幹線の本庄早稲田駅も完成し、環境・情報に関する研究が展開されている本庄キャンパスの見学を予定しています。2007年に新設された環境・エネルギー研究科や本庄高等学院などを見る予定です。

日 時 2008年11月25日(火) 12:00~

場 所 本庄キャンパス(93号館)、本庄高等学院等

人 数 約30名

詳しくは機友会ホームページへ掲載します

昭32年卒機友会懇親会

先に、同期の皆様にはe-mailまたは郵便でお知らせした通り下記にて開催します。奮ってご参加ください。

場 所 早稲田大学大久保キャンパス、55号館2階竹内ラウンジ

日 時 毎年4月及び10月の第三火曜日13時から約2時間を予定
1回目は平成20年10月21日(火曜日)

会 費 ¥2,000程度。酒類は大学構内では入手不可、持ち込みは可(ただし責任もって後片付けを要す)

幹事有志 江口、井上、網野、岩井明、石岡、石浜、増田、福田、中山、笹本、大石、西野入

早稲田大学創立125周年の募金の報告と継続について

創立125周年記念事業の一環としての理工学部100周年記念事業へのご協力を2005年10月より機友会事務局より卒業生の皆様にお願いしてまいりました結果3月31日現在で293名の方々から11,597,500円のご寄付を賜りました。本誌を借りて厚く御礼申し上げます。

すでにご存知のことと思いますが、創立125周年記念事業募金8年間で目標の200億を突破したそうです。

創立125周年記念事業については本年3月31日をもって終了しましたが、引き続き理工学部創設100周年記念研究教育強化事業募金を来年の3月31日まで行っております。

理工学部では、63号館の建設(終了)と60・61号館地上部除却等キャンパス内の整備が計画されています。

理工学部創設100周年記念研究教育強化事業募金について更に、現在卒業生のご協力をお願いしています。

8月6日現在、45名の方々から3,203,000円のご寄付を賜り、重ねて厚く御礼申し上げます。

理工100周年記念募金 (敬称略)

昭18年	小川 善次郎	近藤 誠宏	昭40年	荻須 吉洋
昭21年	吉森 信夫	高瀬 幸夫	昭41年	小野沢 一訓
昭22年	大澤 宏	柴山 哲男	〃	笹島 富二雄
〃	田村 献	谷井 由紀夫	昭42年	石 太郎
昭24年	土屋 和夫	昭35年	泉 知明	井野 博
昭26年	増田 次郎	三浦 重孝	昭43年	西納 功
昭27年	杉島 和三郎	藤原 義行	昭47年	北村 博
〃	藤村 彰	堀 信夫	昭49年	佐山 正巳
〃	細井 健司	植田 剛夫	〃	高橋 健太
昭30年	岸 政吉	高橋 道夫	昭49年	三坂 公明
昭32年	江口 昌典	中島 順	〃	山崎 一正
〃	大石 則忠	両角 恒久	昭50年	鈴木 一彦
昭33年	相川 義治	種岡 昌夫	昭61年	松森 久宜
〃	香川 達雄	丹羽 宏	平2年	松本 純
〃	工藤 健一	江口 正芳	平14年	長塚 正敏

125周年記念募金(氏名 未掲載分) (敬称略)

昭19年	土橋 正道	昭37年	植田 直義	〃	平田 昌邦
昭20年	齋藤 孟	〃	角田 聰	昭44年	酒井 達雄
昭21年	高坂 潔	〃	間宮 映幸	昭47年	匿名希望
昭26年	渡部 譲	昭38年	見辺 日出男	昭49年	小笠原 誠
昭27年	佐藤 四良	昭39年	諫訪 智士	〃	小笠 俊博
昭28年	立木 啓三	〃	宮武 和久	〃	宮原 誠治
〃	林 攻	昭41年	岡部 公一	昭54年	堀端 真彦
昭30年	水野 秀郎	〃	真下 芳雄	昭56年	布山 幸宏
〃	若尾 昭	昭42年	三原 彰英	昭61年	森田 照義
昭32年	大石 則忠	〃	匿名希望	平5年	立川 裕之
〃	進藤 哲朗	昭43年	伊村 晟	平14年	金城 均
昭33年	高瀬 幸夫	〃	高 旺永	(有)吉村製作所	
昭36年	末永 景大	〃	高橋 建行		

機友会会費規定の変更のお知らせ

機友会の会費に関する会則の細則第2条-2と3条-2・3の規定を変更することが理事会で承認され、内容は本年度総会で報告されました。この規定は来年4月より実施されます。変更点は以下の通りです。

- 卒業後50年目から、会費免除という規定が実態に合わなくなってしまったので、廃止します。来年卒業50年目を迎える昭和35年3月卒業の皆さんより、今までどおり会費を納めていただきます。

※昭和34年卒業以前の既に会費免除になった方々はそのままですが、サポート費の協力をお願いしています。

- 年会費は一律3000円と致します。銀行引落しの場合の金額は2750円で今までどおりです。(4年分前払いの場合1万円という規定は廃止になります)

※割引制度がなくなりますが、財政の健全化のためご理解をいただきたいと存じます。

- 在学生については、基幹理工学部で機械科学航空工学科に所属する学生は2年生からの3年間で4000円とします。

総合機械工学科の学生は今まで通り4年間で5000円です。

事務局就任のご挨拶

伊藤 忠夫（昭42年卒）



始めて。昭和42年卒の伊藤忠夫です。この度、機友会の事務局を手伝うことになりました。機友会員相互の親睦向上をはかり、学術技芸の発展に寄与するために、各理事、幹事の方々が円滑に活動できるようお手伝いするわけですが、会員の皆様が機友会を盛り立てようとされている現実を見て、大変なことだと認識致しました。それとも知らず、何かの会合で気安く事務局の手伝いを引き受けてしまったことを今、少し後悔しております。

とは言っても引き受けたからには永年築いてこられた学生・OB・教員会員で構成された組織を維持発展させるため、会員の皆様のお力のもとスムースな会の運営ができるように努力する所存ですので、どうぞご協力のほど宜しくお願ひします。



西門入口付近

編集後記

機械工学が2学科に再編され、それぞれ更なる発展を目指しております。今後の成果が期待されます。大久保のキャンパスは夏休みの期間に建物のリフレッシュを行っています。秋にはきれいになっていることでしょう。先生方の叙勲が続いている。おめでとうございます。事務局は新しいメンバーを迎えました。よろしくお願ひいたします。また、皆様の身近なニュースがありましたら、お知らせください。

(編集担当理事 萩須吉洋)

会員訃報

2008年4月以降に下記の会員の訃報について連絡がありました。	昭24 専運 金子 吉一 2007.4
ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。	昭24 専運 寺田 利邦 2007.8
	昭24 専運 蜂屋 一弥 2007.7
	昭25 旧機械 板津 誠
	昭30 一理 小池 弘保 2007.12
	昭30 二理 古市 尚真 2008.4
	昭31 一理 平山 融 2007.12
	昭33 二理 深川 宗次
	昭33 二理 山岸 豊成
	昭35 二理 鈴木 隆 2006.10
	昭37 二理 渡鷗 九州夫 2007.11
	昭43 一理 宮崎 総一郎 2008.4
	昭49 機械 棒山 資和
	昭55 機械 福間 光彦 2007.11

事務局退任のご挨拶

浅井 和宣（昭30年卒）



本年7月末をもって機友会事務局を退任いたしました。平成11年5月に前任者から依頼を受け、最初はしばらくの間の手伝いのつもりでいたのが、いつの間にか9年近くも経ってしまいました。この間、会長・副会長はじめ皆々様にご指導・ご協力をいただき、大過なく勤めることができましたことをたいへん有難く感謝いたしております。

平成16年に杉島会長が就任され、次々と新たな企画・事業が提起され、機友会活動がより活発化して、理事会をはじめ、各委員会、WGによる検討会の開催により多くの課題が論議され、これを実現に移すべく多くの方々の手を借りながら勤められることができ、機友会の95年に及ぶ歴史の中の僅かな一端を担つたことをたいへん喜びに感じます。昨年、理工学部が再編され機械工学科が2つに分かれました。新しい総合機械工学科と機械科学航空工学科が機友会とうまく融合できるかとの懸念されることもありましたが、先生方のご尽力もあり、先ずは無難にスタートできたことと思っています。一方、ひとつ気がかりなことは住所不明会員が年々増加傾向にあることで、いろいろ手を尽くして追跡調査を行ってきましたが、昨今の個人情報保護の傾向が強く、思うように成果が得られないのが現状です。今課題となっている幹事網の整備を足がかりに、これらの問題が会員の関心を高め、少しでもよい方向に向かうことを望んでいます。

今後は伊藤忠夫氏（昭42年卒）に業務を引き継ぎいたします。どうか今まで同様ご支援・ご協力を賜りますとともに、機友会の益々の飛躍と会員の皆様のご健勝・ご活躍を祈念いたします。

機友会事務局

月、火、木、金 の 10:00~17:00
伊藤、佐々木、瀬谷

〒169-8555
東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学理工学部内55号館S棟2階
電話 03-3203-4141(大代表)内線73-5252
TEL/FAX 03-3205-9727
E-mail kiyukai@mse.waseda.ac.jp
<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>

WME ニュースレター vol.30

発行元 早稲田機友会編集委員会

印刷 神谷印刷株式会社
〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24